

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 8	学校名	県立下館第一高等学校附属中学校					課程	—		学校長名		木村 功				
教頭名	入江 宏昭										事務（室）長名		棚井 一博				
教職員数	教諭	12	養護教諭	1	常勤講師		非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手			事務職員	4	技術職員等	5	計	23
生徒数	1 年				2 年			3 年			合計				合 計		
	男		女		男		女	男		女	男		女		ク ラ ス 数		
	20		20		20		20	20		20	60		60		3		

2 目指す学校像

【目指す学校像】

自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財育成を目指し、生徒と教師がともに学び合う学校

【育てたい生徒像】

様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー

- 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒
- 豊かな表現力やコミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒
- 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導	授業時間にゆとりをもたせ、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目指し、授業改善に努めた。各教科とも、ペアやグループでの話し合いを入れながら考えさせ、	学年が上がるにつれ、上位層と下位層の学力差が大きくなっている。下位層の基礎学力の底上げを図ると共に、上位層のさらなるレベルアップ

	振り返りの時間を大切にするように授業実践が行われるようになってきている。I C T機器の活用については、一人一人の教師の意識が向上し、普段の授業の中でのI C T機器の活用は定着してきた。	ブを図りたい。そのために習熟度別の少人数、T Tの授業の充実など、学習の個別最適化を引き続き進め、授業改善を推進していきたい。また、各種テスト結果の分析を効果的に進め、授業改善に生かしたい。今年度、第一期生が高校3年次となったので、中学校教員と高校教員がT Tを行うなど中高一貫教育をより推進したい。
生徒支援	複数担任制での学年運営を通し、生徒一人一人に寄り添った関わりを目指した。ほとんどの生徒が、学習に対して前向きに努力し、基本的な生活習慣を身に付け生活できている。個別の教育相談や家庭との連携、補習授業等で対応してきた。	人間関係や学習のつまずきに対して悩む生徒がおり、学校を休みがちになる生徒が出てきた。複数担任制をより生かした生徒理解、教育相談を充実させたい。管理職が積極的に関わるなど家庭との連携も大切にしながら、生徒に寄り添った生徒支援に努めたい。
特別活動	附属中独自の生徒会組織体制を新たに構築し、生徒会活動を実践したり、学級においては、話し合い活動に力を入れて、自発的、自治的な活動の充実を図った。学校全体として自発的、自治的な活動が活発になってきている。中学校独自の委員会活動も定着してきた。	生徒会組織体制を整備し、学級活動における話し合い活動を更に充実させ、自治的能力の育成を図っていききたい。また、自己有用感や自己肯定感を高めるために、キャリア・パスポートの効果的な活用を図っていききたい。
広報活動 地域連携	説明会やH P、学校パンフレット、新聞やケーブルテレビ等で積極的に情報を発信し、「社会に開かれた学校づくり」に努めてきた。筑西市や地元企業等、地域との連携も、実施方法を工夫・改善しながら進めてきた。学校説明会を生徒主体で企画・運営してきた。	附中生による小学校訪問など積極的な情報発信を工夫して、「社会に開かれた学校づくり」を進めたい。そして地域と連携した課題解決型探究活動を推進することで、地域に信頼される学校づくりに努めていききたい。また、高校と有機的

別紙様式 1 (中)

		に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組んでいきたい。
働き方改革	会議等のペーパーレス化を進め、報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働くよう I C T 機器を積極的に活用した。質の高い効率的な組織運営の実現を目指し、適切な役割分担と連携のある組織づくりを推進した。	教員の意識改革に今後も努める。業務効率化に向けた I C T 機器の活用を更に推進し、仕事内容等の精選・合理化に関する職員の意見を積極的に取り入れ、実現していきたい。

4 中期的目標

1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。 (附属中学校 7 校の連携、総合的な学習の時間【地域探究セミナー】の活用) ※ 数値目標：生徒による授業評価での授業満足度【4 段階評価】平均 3.2 以上 2 複数担任制を生かし、教育相談体制を工夫することで、より正確な生徒理解に努める。 ※ 数値目標：《生徒アンケート》学校が楽しい【4 段階評価】平均 3.5 以上 3 附属中独自の生徒会等の組織、体制を確立させ、自発的、自治的な活動を充実させる。 ※ 数値目標：《生徒アンケート》行事への積極的な参加【4 段階評価】平均 3.0 以上 4 中高一貫教育校として 6 カ年教育の経営に全職員一丸となって取り組み、新たな魅力ある学校づくりを推進する。 ※ 数値目標：中学志願倍率 2.0 倍以上 5 仕事内容等の精選・合理化を進め、業務の効率化を図り、時間を意識した働き方についての改善・改革を推進する。 ※ 数値目標：全職員が時間外勤務月 45 時間以下、学校全体として 1 つ以上の事業の削減
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	①生徒による授業評価での授業満足度【４段階評価】平均 3.2 以上を目標に、生徒の学びを引き出す授業力の評価（Teaching）と生徒の学びを支援し伴走する力の評価（Coaching）により、教員個々の授業改善を推進する。 ②問題解決的な学習や協働的学習スタイルを積極的に取り入れ、附属中学校 7 校連携事業や総合的な学習の時間で身に付けた手法を生かした授業を展開する。また、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う学習を充実させるとともに、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を充実させる。 ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ④習熟度別の少人数学習や TT での指導の充実を図る。
正しく判断し、思いやりのある生徒の育成	⑤複数担任制を生かし、教育相談体制を工夫することで、より正確な生徒理解に努め、個に応じた指導を効果的に行う。 ⑥全員で協力して実践する活動等を工夫し、意図的に設定する。 ⑦学校内はもちろん、校外においても元気な挨拶を励行する。 ⑧道徳科の授業を充実させ、道徳的価値の理解と実践力を育成する。 ⑨職員間の共通理解を図り、同一内容での指導を徹底する。
特別活動の充実	⑩附属中独自の生徒会組織体制を整備することで生徒会活動の活性化を図る。 ⑪学級活動における話し合い活動の充実を図る。 ⑫近隣の中学校や小学校と連携した取組を計画、実践するとともに、学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。 ⑬キャリア・パスポートを積極的に活用し、積み重ね、振り返りを充実させる。
広報活動の推進と地域との連携	⑭生徒主体の学校説明会や附中生による小学校訪問を企画・実施する。

別紙様式 1 (中)

	⑮HPの更新回数を増やしたり、学校パンフレットを刷新したり、報道機関に情報提供したりするなど積極的な情報発信に努める。 ⑯筑西市や地元企業と連携し探究活動の質を向上させる。また、学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し教育活動の質の向上を図る。 ⑰小学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑱高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。 ⑲一昨年度、創立 100 周年を迎えた伝統校として、地域と連携した課題解決型探究活動を推進し、地域に信頼される学校づくりに努める。
働き方改革の実現	⑳各校務部及び学年等で協議したり、個別に職員の意見を聞いたりして仕事内容等の精選・合理化を進める。また、役割分担を細分化、明確にすることで業務の効率化を図る。 ㉑ICT機器を効果的に活用した情報伝達・共有を更に推進していく。 ㉒働き方改革に対する教員の意識を向上させる。